

祝祭日には国旗を掲げましょう



しろたへ

安房神社々報
第十四号



くにたみの ひとつのところに つかふるも

みおやの神の みめぐみにして

— 明治天皇御製 —

この歌は明治天皇様が明治三十七年にお読みになられた歌です。天皇陛下から我々国民の一人一人が心を合わせ、国のために力を尽くす事を喜ばれ、皇祖皇宗の神々(天照皇大神様をはじめとする皇室の祖先にあたる神々)への感謝を表されています。

時は流れて今年には明治から数えて百五十年という節目の年となりました。戦争をはじめとした多くの出来事を経る中で社会や人の考え方も大きく変わってきました。個人を重んじるあまり、人と人との繋がりが希薄になったように感じるかもしれません。しかし、昨今の災害を通して我々日本人は今も変わらずに心を一つとして難事に対することができると感じられます。

来年には天皇陛下の譲位が予定され、平成の号もその役目を終えることとなります。新たな時代を迎えるに当たり、いま一度平成の世における私たちの歩みを振り返り、また先人たちの思いや歩みに心を馳せてはいかがでしょうか。

《執り行われた主な祭典》

九月 十日	午後三時	抜穂祭
九月十六・十七日	午前十時半	安房國司祭
九月 二十七日	午前九時半	琴平社祭
十月 十日	午前九時半	館砲三期会慰霊祭
十一月 二十三日	午前九時	新嘗祭
十一月 二十四日	午前十時半	新穀感謝祭
十二月 二十六日	午前九時半	神狩祭
十二月 三十一日	午後十一時半	大祓式並除夜祭
一月 一日	午前零時	歳旦祭
一月 四日	午後四時半	有明祭
一月 四日	午後四時半	置炭神事
一月 十五日	午前九時	粥占神事
二月 三日	午前十時半	節分祭
二月 十一日	午前九時	建国祭
二月 十七日	午前九時半	祈年祭
四月 三日	午前九時半	神武天皇遥拝式
四月 一日	午前十時半	桜花祭
※毎月一日	午前九時半	月次祭

節分祭

立春の前日、冬から春へ移り変わるこの二月三日に安房神社でも節分祭が斎行されます。

当社では、宮司祝詞奏上の後、地元神楽保存会による勇壮な天狗被えの舞、宮司、福娘による追儺の儀が行われました。

今年の祭礼には館山ふるさと大使を務める「さかなクン」が特別年男として参列し、祭典後の豆撒きに集まった多くの参拝者の方々が歓声をあげていました。



天太玉命と置炭神事、粥占神事

安房神社の主祭神の天太玉命は産業総祖神として崇敬を集めていますが、祭祀を司り占いにも長じると伝えられています。

安房神社には占いと関係の深い置炭神事、粥占神事という二つの神事があります。

一月十四日の夕刻、正月に用いた門松の松材に忌火を付け、粥を炊き、薪が燃え尽きる頃、おき(赤くおこった炭火)を十二本取り出して、その燃えた色具合によって一年間の天候を占定するのが置炭神事です。そして置炭神事るとき、粥を煮た鍋に十二本の葦筒を沈め、翌十五日の朝に取り出し、小刀で葦筒を割り、その粥の入り具合によってその年の農作物の豊凶を占定するのが粥占神事です。

※今年の占定の結果は左記になります。

一月十四日夕刻 置炭神事		一月十五日早旦 粥占神事	
一月	晴	早 稲	六 分
二月	晴	中 早 稲	八 分 半
三月	晴上下旬少々雨	中 稲	六 分
四月	雨上下旬少々晴	中 晩 稲	四 分
五月	晴	晩 稲	五 分
六月	晴下旬雨	大 麦	三 分
七月	雨上下旬少々晴	大 豆	三 分
八月	晴下旬雨	粟	三 分
九月	雨上下旬少々晴	小豆・大角豆	三 分 半
十月	雨上下旬少々晴	葉 大 根	九 分
十一月	晴下旬雨	芋	八 分 半
十二月	雨上下旬少々晴	木 綿	三 分 半

平成三十年 前期主祭典予定

四月二十二日	午後三時	御田植祭
五月十日	午前九時半	下の宮祭
五月二十七日	午前九時半	海軍落下傘部隊慰霊祭
六月十日	午前九時半	厳島社祭
六月三十日	午後四時半	夏越の大祓式
七月十日	午前八時	忌部塚祭
八月十日	午前十時	例祭
九月十日	午前九時半	御飯屋祭
九月中旬	午前十時半	安房園司祭
九月二十七日	午前九時半	琴平社祭
九月中旬	午後三時	抜穂祭
※毎月一日	午前九時半	月次祭

平成30年 厄年一覽表

	前厄	本厄	後厄	
男	25歳	平成7年生 (亥年)	平成6年生 (戌年)	平成5年生 (酉年)
	42歳	昭和53年生 (午年)	昭和52年生 (巳年)	昭和51年生 (辰年)
	61歳		昭和33年生 (戌年)	
女	19歳	平成13年生 (巳年)	平成12年生 (辰年)	平成11年生 (卯年)
	33歳	昭和62年生 (卯年)	昭和61年生 (寅年)	昭和60年生 (丑年)
	37歳	昭和58年生 (亥年)	昭和57年生 (戌年)	昭和56年生 (酉年)
	61歳		昭和33年生 (戌年)	

神社豆知識

【神饌について】

神饌とは神様へお供えする食物であり、米、酒、餅、魚、海菜、野菜、果物、塩、水などが主となり、その他特殊な神饌などが加わる事もあります。細かく見ていくと、米は和稻(にぎしね)白米と荒稻(あらしね)玄米、酒は黒酒(くろき)木炭の粉を混ぜた酒、白酒(しろき)濁り酒、醴酒(れいしゅ)一夜酒、清酒に、魚は海魚や川魚他多くの種類に分類されます。神社の祭典には大祭、中祭、小祭といった格があり、祭典の格が上がるほど、神饌の台数は増えていきます。神饌は平瓦などの器に盛りつけられ、それを載せる台として最も使用されるものが三方と呼ばれる台になります。海川山野の種々の神饌は三方に載せられることでより立体的な美しさを増し、神を喜ばせることとなります。

三方は天と呼ばれる折敷の部分と胴と呼ばれる台の部分から成り立っており、三方を掲げ持つ際は折敷の部分ではなく、胴の部分の掌で重みを支えるようにしてしっかりと持ち伝供を行います。伝供とは神饌を神に献ずる大事な神事なので、その作法は三方を目線の高さ掲げて息のかからないように執り行います。

三方の名前の由来は、台の正面と両側面の三面に眼象(がんしやう)という穴が開いているところから来ているとも言われております。三方には朱塗三方や黒塗三方もあります。白木(素木)三方がもっとも一般的に使われています。本来の造り通り綴目部分に榉桜の皮が使われている場合、白木三方ではよりそれが確認しやすくなっています。綴目の位置は折敷と胴では正反対になっています。

もともと三方の原型は底板に曲げた側板を載せただけの簡素なものでした。やがて底板と側板を木の皮等で固定するようになっていきますが、こういった由来の名残は現在の三方の造りにも色濃く受け継がれており、特に穴のない円筒形の台に丸い折敷ののった丸三方などは板の曲物に三方の起源があることをより顕著に感じることが出来ると思います。

伝統を連綿と繋げる神道では、祭器具ひとつからでも、遠い祖先たちの息吹を窺い知ることが出来るのです。

安房あづち茶屋

安房神社の神池前には「安房あづち茶屋」がございます。

春は新緑鮮やかな神池後方の吾谷山^{あづち}を眺めながら、癒し処として心静かに穏やかなひとときを過ごされ
ますよう御利用下さい。

炊きたての温かいおにぎりセットや、おみやげ物として房州銘菓、また夏の間は涼を呼ぶかき氷などもございます。是非お立ち寄り下さい。



社頭受付時間案内

※境内自由参拝について※

大晦日のみ終日参拝が可能ですが、それ以外については、**早朝六時〜午後六時**までとなっております。
警備・防犯上の都合により、時間外は境内への立入りを一切禁止しております。

営業日 **金、土、日、**
振替休日の月曜日

営業時間
午前十時〜午後四時

【お水取り・お砂取りの作法】

当社で「お水取り・お砂取り」をされる場合、まず初めにお祓いを受け、その後お水取場・お砂取場にお進み頂いております。

これは御本殿近くの清浄なお水取場・お砂取場に、外界の穢れを持ち込まないための重要な作法です。お時間に余裕を持って御来社されることをお勧め致します。また大型ポリタンクなどによる大量のお水取り、過度のお砂取りは御遠慮願ひ、御神水飲用の際には必ず煮沸いただきますようお願い致します。

※一般参拝者のお水取場・お砂取場への立入りは右記の理由から禁じております。また早朝、夜間のお水取り、お砂取りは一切出来ませんので、必ず受付時間内にて御取り願ひます。

- ・ 神符守札の授与、御朱印
 - ・ 御祈祷、お水取りの受付
- 午前八時三十分〜午後五時**
午前九時〜午後四時三十分



平成三〇年四月二十日発行／安房神社々務所
〒二九四・〇二三三 千葉県館山市大神宮五八九番地
電話 〇四七〇・二八・〇三三四 FAX 〇四七〇・二八・〇四三八
HP <http://www.awajinjya.org/>